

平成 23 年 2 月 15 日

区立千登世橋中学校生徒が ロボットコンテスト全国大会で 健闘！

～ 全国大会に出場したロボット としまものづくりメッセに出展 ～

22 日に開催された、「第 11 回創造アイデアロボットコンテスト」（主催：全日本中学校技術・家庭研究会）の全国中学生大会に、区立千登世橋中学校ロボット部 2 年生 4 名が出場した。

同コンテストは、中学校技術・家庭科において生徒の創造性を伸ばし、知識・技術を高めることを目的としている。地区（都道府県）大会、ブロック大会と勝ち進んだ生徒が創造性溢れるロボット技術の頂点を目指し臨むのが、全国中学生大会だ。

大会に出場したのが、区立千登世橋中学校ロボット部 2 年生 4 人で結成された「TEAM-WONDER BOX」だ。約 120 チームが出場した東京都大会で優勝をし、関東甲信越大会に進出、その後、全国 32 チームの強豪が集まる全国大会に出場した。

彼らが選択技術の授業で試行錯誤しながら製作したロボットは、授業内部門の課題ロボット「お掃除ロボット 2010」だ。規格が決められているロボットで、コート内にばらまかれた 26 個のゴミ（紙を丸めたもの）と 2 個の粗大ゴミ（単一型乾電池）を 60 秒間で掃除していく。時間内で多くのゴミを掃除できたチームが勝ちとなる。

同中学校生徒は、予選リーグをブロック 2 位で通過し、決勝トーナメントに出場した。残念ながら、決勝トーナメントでは対戦直前に、電気システムのトラブルでロボットが動かなくなってしまったが、全国ベスト 16 という成績を残した。

同中学校技術・家庭科を担当し、ロボット部顧問でもある桐生征臣先生は、「ロボット作りは、出来上がったら終わりではありません。実際動かすと多くの問題点が出てきます。そこからが本当のロボット作りになります。問題点が見つかり、新たな設計と改善が始まります。大会に出場してもさらに問題点が発生し、その場での対応が要求されます。どんな状況でも最後まであきらめない粘り強さが結果を生み出します。ロボットコンテストは単なるものづくりではありません。未来に向けた自分づくりであると考えています」と話した。

大会に臨んだ 2 年生 倉田慧さん（14 歳）は、「設計したロボットを試行錯誤しながら何度も改良しました。大会では、緊張しましたが、強い相手と対戦できたことが楽しかったです。決勝トーナメントでは、マシントラブルで十分戦えず負けたことがとても悔しかったです。来年も全国大会に出場しベスト 16 以上を目指したいと思います」と話した。

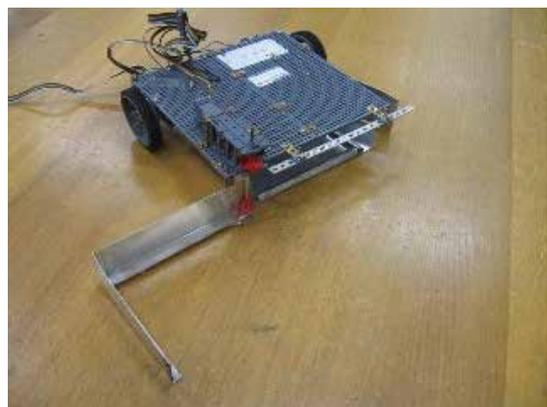
全国大会で健闘した千登世橋中学校生徒のロボットが、3 月 3～5 日にサンシャインシティ展示ホールで開催される「池袋副都心の産業見本市 第 4 回としまものづくりメッセ」に出展される。

中学生が粘り強く問題解決しながら製作したロボットを通し中学生の創造力に触れる絶好の機会となる。 ※写真はメールで送ります。

生徒たちの練習風景



千登世橋中学校のお掃除ロボット 2010



問い合わせ： 豊島区立千登世橋中学校